特集

Q&A
がん罹患者の経済的苦痛をやわらげる

執筆・監修　特定非営利活動法人「がんと暮らしを考える会」

がんに罹患すると、身体的あるいは精神的な苦痛に加えて、経済的苦痛にどう対応するかが喫緊の課題となってきます。治療費の捻出、就労不安、家族の生活費、住宅ローンの支払いなど、さまざまな不安が苦痛となってのしかかってくるからです。本特集では、ＮＰＯ法人がんと暮らしを考える会の対応事例をもとに、それらの経済的苦痛への対応策を探ります。

がん患者とその家族が安心して暮らせるための支援体制を構築

ＮＰＯ法人がんと暮らしを考える会理事　岡本英夫

がんに罹患すると身体的あるいは精神的な苦痛に加えて、治療費の捻出、就労不安、家族の生活費・住宅ローン支払いをどうするかといった、さまざまな不安が患者さんとその家族を襲います。「ＮＰＯ法人　がんと暮らしを考える会」は、こうしたがんに罹患することで生じる社会的な苦痛（特に経済的な苦痛）を緩和することにより、がん患者とその家族が安心して暮らすための支援体制を構築することをめざして、昨年7月に発足した非営利組織です。

会員にはファイナンシャル・プランナーもいますが、ＦＰの組織ではありません。看護師、医師、ＭＲ（医薬情報担当者）、弁護士、税理士、社会保険労務士、そしてＦＰ資格保有者などが、がん患者を支援するという目的のために集まった専門家集団です。

これまでの実績としては、昨年6月にがん患者さんのお金に関連した困りごとを解決すべく、経済的な問題に関連した制度を検索できるＷＥＢサイト「がん制度ドック」を立ち上げています（http://www.ganseido.com/）。

そして昨年の下期から「地域がん診療連携拠点病院」すなわちがん専門病院で「がん患者さんとその家族のための個別相談会（相談会の名称は病院により異なります）」を行っています。相談会の主催者はあくまで病院で、がんと暮らしを考える会は相談員を派遣しているにすぎませんが、取組みの成果は着実に出てきています。

実験的に開始した関東と関西の2つの病院での相談会は、今年度も引き続き月1回のペースで実施することになっていますし、関西での相談会については新聞等でも紹介されています。

本特集は、読者であるファイナンシャル・プランナーのみなさんにＦＰと医療従事者、社労士等専門家の対応事例について、Ｑ＆Ａの形でご紹介したいと思います。

がん罹患者との相談と看護師の役割

病院で相談会を実施するためには、相談会の必要性を説き、企画案をあげ、医師や院長を説得する人材が必要です。2つの病院ともその役割を果たしたのが看護師さんでした。

もうひとつ、看護師さんの重要な役割に、相談会の周知と相談者の受付、そして相談内容の相談員への取り次ぎがあります。相談会が成功するか否かは患者に寄り添う看護師さんの対応にかかっていると言ってもよいと思います。

実際の相談の場に看護師さんが同席される場合もあります。自らが担当する患者さんであれば病状も、お見舞いに来られるご家族のこともご存知です。看護師さんの存在が相談者・相談員の距離を近づけ、相談がスムーズに進む場合が多いのです。

患者さんに寄り添う看護師さんの役割は重要です。がんと暮らしを考える会では、看護師さんをはじめとする医療従事者向けのセミナーも開催していますが、そこで看護師の立場から医療機関での相談会の重要性を訴え続けておられるのが、本特集のトップバッターでもある賢見卓也理事長です。

がん患者さんとの相談ＦＰは受付兼コーディネーター

現在、相談員はＦＰと社会保険労務士の2名で担当しています。本特集のパート4を担当された川崎由華さんはその一人です。